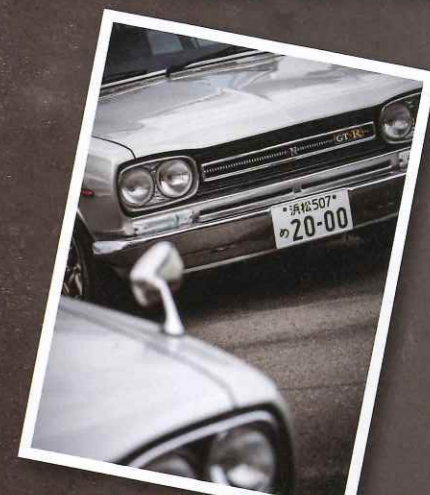
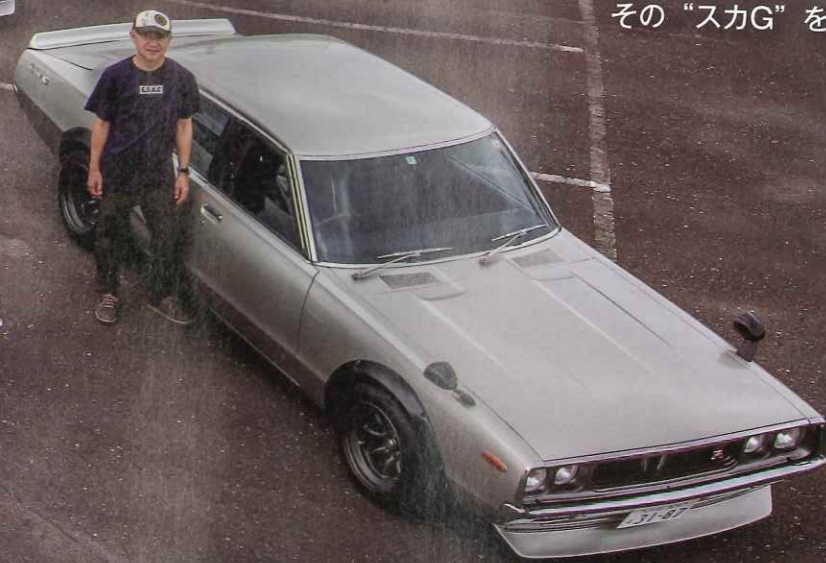


スカG乗りの今

アールースカイラインGTクラブの場合

スカイラインはファミリーカーでありながらGTカーとしてもその性能を誇り、新車時から多くのオーナードライバーに憧れを抱かせた。その“スカG”を、今どんな方たちが楽しんでいるのか。

文/甲賀精英樹 写真/山内潤也



ウチはみんな大人しいですよ



クラブ員の愛車拝見

望月圭司さん × '71年式 ハコスカ2000GT

●18歳のときに購入して38年所有。中学生のときにハコスカが好きになり、高校生のときアルバイト先近くの中古車店でひと目惚れした。娘さんのお名前は侑音(らいん)ちゃん。もちろんスカイラインの「ライン」である。

山本利晴さん × '72年式 ハコスカ2000GT

●18歳くらいのときにケンメリに乗った青春の思い出があり、3年前にスカGにリターンした。エンジンはL20のままで排気量も2ℓだが、キャブはウエーバーに替えて吸気音を楽しんでいる。「3ℓにしたいとも思うけど、今はパーツが高いですからね。街乗りだったら2ℓのままで十分ですよ」。ホイールはハヤシストリートの8J(前後)で、ナロー加工して収めている。



藤原正司さん × '75年式 ケンメリ2000GT

●10年前、近所の人がこのクルマに乗っていたのだが、ホロホロになっていたので譲り受け、時間をかけてこの状態に仕上げた。譲り受けたときはもっとバリバリの仕様だったそうで、これでもだいぶ大人しくなったという。エンジンは3ℓ8認。

池田大祐さん × '77年式 ケンメリ2000GT

●1年前に購入。それ以前はRB25エンジンにスワップしたケンメリ4ドアに乗っていたが、L28公認のキャブ仕様のケンメリに乗り替えた。「キャブ車に憧れてました。キャブ車は良くも悪くも安定感がなくても面白い」と言う。隣は奥様の美希さん。

鈴木登さん × '72年式 ハコスカ2000GT

●鈴木さんも18歳でハコスカ4ドアを知り、また乗りたいと10年前に購入。価格は200万円弱で、まだ今のように高騰していなかった。オイル下がりがあったのでエンジンをL28改の3ℓとして公認を取得。

いけがや 池谷信之さん × '70年式 ハコスカ2000GT

●こだわりの45前期。免許を取って20歳のとき、70万円で45前期の白いハコスカを購入。R仕様にして楽しんだが、諸般の事情で手放してしまい、以来ずっとハコスカを探していたという。7年前に茨城に気に入ったクルマがあり、手に入れた。奥様の由美子さんと参加。



出野隆文さん × '70年式 ハコスカ2000GT

●「父親が44か45の4ドアに乗ってたんです。それでどうしてもまた乗らなくなって買っちゃいました」。エンジンルームにはウエーバーφ40がでんと構えるが、エンジン自体はL20型のノーマル。ホイールは当時モノのテクノ(前6.5J、後7J)。ドアバイザーが付いている。



北原一信さん × '71年式 ハコスカ2000GT

●結婚前にハコスカに乗っていたが、子供が生まれてから手放した。それでもまた乗らなくなると8年前に購入。しばらく放置していたが、また復活させた。フロントまわりは44、リアまわりは45仕様で板金加工もして仕上げている。

静かなるスカGオーナーたち
希望のない時代だと人は言うかもしれない。給料は上がらず物価は上がり、そのうえ戦争だ食料危機だと先が見えない。ならばと本誌なりに、夢のある言葉を探してみたら、古い自動車雑誌からこんなモノを拾った。「GT&スポーツ」である。

これは1970年代に使われた自動車業界の慣用語で、雑誌の特集タイトルや、
「ツ専門店」とか「GT&スポーツ高価買取」といった具合である。免許を取ったばかりの若者にとり、この言葉はまばゆく輝いて見えたものだ。
だが80年代になるとその威光はかけられだし、90年代になると中古車店の看板から消えた。代わって「RV専門店」や「ミニバン高価買取」の文字が現れた。その変化は旧車の世界にもあっただろう。セダン、商用車、軽自動車にも趣味の領域が広がり、スポーツカーは皆が目指すも